

トリマー（ペットの美容師）に対する イヌの行動特性評価に関するアンケート調査

田所理紗*・増田宏司**・土田あさみ**・大石孝雄**

(平成 23 年 2 月 22 日受付/平成 23 年 9 月 13 日受理)

要約：トリマーおよびトリミング専門学校学生に対してイヌの行動特性評価に関するアンケート調査を行った。集計の結果、扱いやすいイヌの身体的特徴としては、小型のイヌであることが、扱いにくいイヌの特徴としては、被毛の長さ、イヌのサイズ、性別などの身体的特徴は関係しないことが判明した。また、トリマーの経験年数が 3 年以上の回答者について、得られた回答を数量化Ⅲ類解析にて処理した結果、扱いやすいイヌの行動特性に関する質問に関して有効な軸が 2 軸得られ、回答者の捉える扱いやすいイヌの行動特性には男女差があることが判明した。すなわち、男性トリマーは活発・好奇心旺盛なイヌを、女性トリマーはおとなしい・臆病なイヌを扱いやすさの指標として捉える傾向にあることが明らかとなった。

キーワード：扱いやすさ、イヌ、行動特性、男女差、トリマー

緒 言

1) トリマーとは

ヒトとの長い共生の歴史の中で、イヌ (*Canis lupus familiaris*) の容姿や習性は多様に変化した。使役犬から愛玩犬まで、その目的に合った形育種選抜、品種改良が行われ、現在では 400 を超える犬種が存在する¹⁾。家畜化初期のイヌには、現存する長毛犬種のような極端に被毛の長いものは存在しなかったと考えられているが²⁾、今日に至るまでの品種改良の結果、毛並みの手入れが欠かせない多くの長毛犬種の登場を機¹⁾にイヌやネコなど家庭動物の毛並みを手入れすること、すなわちトリミング (*trimming*) またはグルーミング (*grooming*) の必要性が認識されるようになった。このような手入れをする専門家をトリマー (*trimmer*) あるいはグルーマー (*groomer*) と呼ぶ。*groom* という言葉は本来馬を手入れする、世話をするという意味であり、馬体の清潔を保って病気を予防しつつ、より美しさを発揮させる、という意味であるが、今日ではイヌに対しても使用されるようになってきている。*trim* という言葉は刈り込む、きちんとした、手入れ、などの意味があり、それぞれの個体の弱点 (欠点) をカバーし、その犬の美しさを発揮させるという意味が含まれている。

今日では、グルーミング、トリミングなどという言葉は犬の形を整えるという意味として捉えられがちであるが、イヌの毛並みを手入れすることは、被毛の生え換わる換毛期や、子犬から成犬への換毛および日常の健康維持、皮膚の適度な刺激による血行の促進、害虫・寄生虫の駆除、身体を清潔に保つことによる新陳代謝の促進および食欲増進など、イヌの健康管理に重要であり、飼い主とイヌとのコ

ミュニケーション手段としても重要視されている。トリマーという職業は獣医師や訓練士に比べ、飼い主の次にイヌと接する時間が長い職業であり、さらに犬の全身を見て、触り、美容していくという作業の特徴から、イヌの性格を判断し、個体によって手法や行動を選択し、個々のイヌにあったグルーミング、トリミング作業を行うことが必要となる。トリマーはイヌの習性をよく理解し、超小型犬から超大型犬の扱い方を熟知し、様々な性格のイヌを扱わなければならない忍耐力が必要な業種であり、イヌの行動特性を判断するには理想的な業種であるとともに、伴侶動物と飼い主との共生をとりもつ重要な橋渡し役であると考えられる。

2) トリマーによるイヌの行動特性評価

イヌの行動特性に関する研究は、世界中で盛んに行われているが²⁻⁵⁾、その方法は大きく分けて 2 種類に分類される。1 つは実際にイヌを用いた行動実験を行い、行動解析の結果から犬種や個体の行動特性を評価するもの^{6,7)}、もう 1 つは飼い主や獣医師、訓練士などの、イヌに関わる者による評価⁸⁻¹⁰⁾ であり、後者は主にアンケートなどの調査により行われる。イヌの行動特性に関する調査をアンケート方式で行う際には、具体的に「何を」、「どのように」質問するかを特に配慮する必要がある。犬学や動物行動学などの専門知識を持った獣医師に質問する際には、その犬 (個体) や犬種の行動学的特徴を問う問題が最も確かな回答を得られると思われるが、イヌの飼い主ほど普段の行動頻度を答えられるわけではない。また、専門的な知識・経験的観点から判断すると、飼い主であってさえ、訓練士 (ドッグトレーナー) ほどの行動頻度あるいは行動そのものの評

* 東京農業大学農学研究科バイオセラピー学専攻

** 東京農業大学農学部バイオセラピー学科

価は難しい¹¹⁾。繁殖者、ハンドラー、ドッグショーの審査員なども犬の専門家として気質調査の評価者対象となっているが、本研究では今までに気質調査の評価者対象となっていないトリマーを対象にしてイヌの行動特性に関する調査を行うこととした。

材料と方法

1) 調査対象および質問内容

2008年から2010年にかけて、トリマー、トリミング専門学校¹²⁾の学生、トリミング専門学校の教員に対してアンケート調査を行った。調査地域および調査対象となる人数は東京（134人）、神奈川（2人）、埼玉（2人）、千葉（7人）、栃木（1人）、富山（1人）、福岡（4人）の合計151人とした。アンケートにはB4版用紙1枚を使用し、郵送により回答を得た。一般的な情報（質問番号1-1～1-4）として、年齢、性別の欄を、また、地域や飼い主の住居環境により飼育犬種の傾向が異なることを鑑みて、店舗所在地の環境（都会、郊外、地方）の欄を、そしてトリマー経験年数についての欄を設けた。質問の内容は、イヌの扱いやすさと扱いにくさについて、被毛の長さ（長毛、短毛、関係ない）、サイズ（大型犬、中型犬、小型犬、関係ない）および性別（オス、メス、去勢オス、避妊済みメス、性別は関係ない）について問うもの（質問番号3-1～5-2）、犬種および行動特性について複数選択方式にて問うもの（質問番号2-1、2-2、6-1および6-2）を用意した。

犬種に関する質問（質問番号2-1および2-2）では、選択欄に2005年のJKC登録上位30位³⁴⁾犬種、すなわち小型犬として分類されるダックスフンド（スタンダード）、ダックスフンド（ミニチュア）、ダックスフンド（カニンヘン）、チワワ、プードル（ミニチュア）、プードル（トイ）、ヨークシャーテリア、パピヨン、シーズー、日本スピッツ、ボメラニアン、ミニチュアシュナウザー、マルチーズ、シバ、フレンチブルドッグ、キャバリアキングチャールズスパニエル、バグ、ミニチュアピンシャー、ジャックラッセルテリア、ウェストハイランドホワイトテリア、ポストンテリア、ペキニーズ、イタリアングレーハウンド、中型犬として分類されるウェルシュコーギーペンブローク、イングリッシュコッカースパニエル、ビーグル、アメリカンコッカースパニエル、シェットランドシープドッグ、ポーターコリー、ブルドッグ、大型犬に分類されるバーニーズマウンテンドッグ、プードル（スタンダード）、ラブラドルレトリバー、ゴールデンレトリバー、（ダックスフンド、プードルはサイズにより3段階に記載）の項目を用意した。これは日本における登録犬種（139犬種；2010年登録データ¹²⁾）の24%にあたる。なお、犬種を選択欄は登録頭数順ではなく、回答者が登録順位に影響を受けないようにランダムに記載した。また、扱いやすい/扱いにくいイヌの行動特性に関する設問（質問番号6-1および6-2）に関しては、選択欄に12項目の行動特性（臆病、よく吠える、活発、犬に攻撃的、人に攻撃的、過敏、おとなしい、好奇心旺盛、人なつっこい、神経質、従順、興奮しやすい）を用意^{11,13)}した。概要を表1に記す。

表1 アンケートの質問内容（概要）

| 質問項目 | 回答方式 |
|---------------------------------|-------|
| (1-1) 年齢 | 年齢を記入 |
| (1-2) 性別 | 2択 |
| (1-3) 店舗所在地の環境 | 選択肢 |
| (1-4) トリマー経験年数 | 年数を記入 |
| (2-1) 扱いやすい / (2-2) 扱いにくい犬種 | 複数選択 |
| (3-1) 扱いやすい / (3-2) 扱いにくい犬の被毛 | 選択肢 |
| (4-1) 扱いやすい / (4-2) 扱いにくい犬のサイズ | 選択肢 |
| (5-1) 扱いやすい / (5-2) 扱いにくい犬の性別 | 選択肢 |
| (6-1) 扱いやすい / (6-2) 扱いにくい犬の行動特性 | 複数選択 |

カッコ内は質問番号を記す

2) 行動の特徴の捉え方とトリマーの経験年数

今回、調査対象としたトリマーから信頼性の高い回答を得るには、トリマーから扱いやすさ/扱いにくさについての情報を得ることが最も望ましいと判断し、扱いやすさ/扱いにくさを左右すると考えられる要素（表1）に質問を絞って調査を実施した。なお、選択肢項目として設定したイヌの行動特性¹²⁾項目は、動物行動学を学んだ獣医師を対象に、2001年から2002年にかけて調査されたもの^{11,13)}と同じ項目であり、質問内容を各個体（患者としてのイヌ）の行動特性評価から、回答者（トリマー）の捉える、扱いやすい/扱いにくい行動特性に変換した点で異なる。イヌの行動特性は、現在までに多数のカテゴリに分類されているが^{9,14,15)}、集計、統計処理等の利便性を考え合わせ、今回は質問内容を行動の特徴に絞り込むことにした。

2007年度のジャパンケネルクラブ²⁾におけるトリマーの登録者数は15,946名であるが、トリマー資格は認定資格であり、トリマーの認定団体が複数存在し、さらにはトリマーを養成する専門学校の修業年限が統一されていない。すなわち、トリマー資格を手に入れるまでの年限が、6ヶ月から3年程度まで大きく異なる。資格取得後1～2年の回答者については技術および知識的背景が大きく異なり、調査結果に大きな影響を与える可能性が考えられたため、資格取得直後（0年）に最も長い修業年数3年を加算したトリマーの経験年数である3年を目安として、トリマーの経験年数が3年以上の回答者を中心に解析を施した。

3) アンケート回答の統計学的分析手法

アンケートの質問6-1および6-2は複数選択方式であり、多変量解析を用いて解析するため、回答を0/1データに変換し、数量化理論に基づき数量化Ⅲ類解析を施した。なお、多変量解析はトリマー歴3年以上の回答者に対して適用した。数量化Ⅲ類解析において、有効抽出軸数は累積寄与率60%を満たす数とし、有効な軸を相関係数=0.5以上を示す軸とした^{16,17)}。また、解析と同時に回答者のサンプルスコアを各軸について算出した。サンプルスコアについては、回答者の一般的な情報（年齢を除く質問1-2～1-4）として得た性別、店舗所在地の環境、トリマー経験年数と、質問より得た、扱いやすい/扱いにくい被毛の長さ（質問番号3-1および3-2）、扱いやすい/扱いにくい犬のサイ

ズ（質問番号 4-1 および 4-2）、扱いやすい/扱いにくい犬の性別（質問番号 5-1 および 5-2）を属性として各種検定手法にて解析を行った。また多重検定による第一種の過誤を防ぐためにボンフェローニの補正を行った。統計解析にはエクセル統計 2009（株式会社 社会情報サービス、東京）を用いた。

結 果

1) アンケート回答者の内容

アンケート実施の結果、トリマー、トリミング学校の学生および教員より合計 147 名（有効回答率；97.4%）の回答を得た。147 名のうち、男性は 21 人（14%）、女性は 117 人（80%）、未回答は 9 人（6%）であった。店舗所在地（あるいは学校所在地）の環境は、都会が 51 人（35%）、郊外が 24 人（16%）、地方が 6 人（4%）、未回答が 66 人（44%）であった。年代は 10 代が 18 人（12%）、20 代は 91 人（62%）、30 代は 32 人（22%）、40 代は 5 人（3%）、未回答が 1 人（1%）であった。経験年数が 3 年未満のトリマーは 93 人、3 年以上は 54 人であった。全体の平均トリマー経験年数は 3.23 年（3 年未満；0.83 年、3 年以上；6.59 年）であった。結果を表 2 に示す。

2) トリマーの捉える、扱いやすい/にくい犬種・被毛・サイズおよび性別

問 2-1 および 2-2 の結果を図 1 に示す。扱いやすい犬種については、シーズー、キャバリアキングチャールズスパニエル、パグ、ビーグル、ゴールデンレトリバー、ポストンテリア、ペキニーズ、イタリアングレーハウンドにおいて、扱いにくい犬種については、チワワ、ヨークシャーテリア、シーズー、ウェルシュコーギーペンブローク、ミニチュアピンシャー、アメリカンコッカースパニエル、イタリアングレーハウンドにおいて、トリマー経験年数が 3 年未満と 3 年以上の回答者間に有意な差（いずれも χ^2 独立性の検定、 $p < 0.05$ ）が認められた。

問 3-1～5-2 の結果を表 3 に示す。トリマー経験年数が 3 年以上の回答者において、扱いやすい被毛の長さおよびイヌの性別（雌雄）については、「関係ない」が最も多かったが、扱いやすいイヌのサイズについては「小型」が最も多い結果となった。一方で、扱いにくい被毛の長さ、サイズ、イヌの性別についてはいずれも「関係ない」が最も多い結果となった。また、トリマー経験年数が 3 年未満の回答者については 3 年以上の回答者との間に有意な差は見られなかったが、扱いやすい被毛の長さにおいて「短毛」が最も多い結果となった。

3) イヌの行動特性の統計分析と属性別比較検定

質問 6-1 および 6-2（いずれも複数選択方式）の回答にそれぞれ数量化Ⅲ類解析（林の数量化理論）を施した結果、設問 6-1 のみが解析に耐えうる数値（表 4）を示し、有効な軸が 2 軸算出された。カテゴリ数量表を表 5 に示す。第 1 軸は他の選択項目に比べて「好奇心旺盛」（4.3176）、「活発」（3.8775）の 2 項目が正方向に大きく算出され、「臆病」

表 2 アンケート回答者より得た情報

| | | |
|------------|------|------------|
| 年代 | 10代 | 18 (12.2) |
| | 20代 | 91 (61.9) |
| | 30代 | 32 (21.8) |
| | 40代 | 5 (3.4) |
| | 未回答 | 1 (0.7) |
| 性別 | 男性 | 21 (14.3) |
| | 女性 | 117 (79.6) |
| | 未回答 | 9 (6.1) |
| 店舗所在地の環境 | 都会 | 51 (34.7) |
| | 郊外 | 24 (16.3) |
| | 地方 | 6 (4.1) |
| | 未回答 | 66 (44.9) |
| トリマー経験年数 | 3年未満 | 93 (63.2) |
| | 3年以上 | 54 (36.8) |
| 平均トリマー経験年数 | 全体 | 3.23 年 |
| | 3年未満 | 0.83 年 |
| | 3年以上 | 6.59 年 |

カッコ内は回答者全体 (n=147) に対する割合 (%) を示す

表 3 扱いやすい/にくい犬の身体的特徴に関する質問回答の集計結果

| 回答者数 (n=147) | <3年以上 (n=54)> | | <3年未満 (n=93)> | | |
|---------------|---------------|-------|---------------|-------|-------|
| | 扱いやすい | 扱いにくい | 扱いやすい | 扱いにくい | |
| 被毛の長さ | 長毛 | 1.85 | 33.96 | 7.95 | 40.45 |
| | 短毛 | 38.89 | 0.00 | 48.87 | 5.62 |
| | 関係ない | 59.26 | 66.04 | 43.18 | 53.93 |
| サイズ | 大型 | 3.77 | 25.49 | 1.18 | 38.75 |
| | 中型 | 9.43 | 3.92 | 22.35 | 1.25 |
| | 小型 | 45.28 | 11.76 | 50.59 | 10.00 |
| | 関係ない | 41.52 | 58.83 | 25.88 | 50.00 |
| イヌの性別 (雌雄) | オス | 0.00 | 14.29 | 2.74 | 20.73 |
| | メス | 13.04 | 0.00 | 6.85 | 6.10 |
| | 去勢オス | 13.04 | 0.00 | 13.70 | 0.00 |
| | 避妊メス | 2.17 | 0.00 | 4.11 | 0.00 |
| | 関係ない | 71.74 | 85.71 | 72.60 | 73.17 |

数値は百分率(選択者人数/回答者人数)×100を示す

(-2.2853) および「おとなしい」(-0.4145) の 2 項目が負の方向に大きく算出された。第 2 軸は「臆病」(8.1225)、「好奇心旺盛」(1.1642)、「活発」(1.1460) の 3 項目が正方向に大きく算出されていたが、負の方向に大きく算出された項目は認められなかった。

回答者の性別、店舗所在地の環境、扱いやすい被毛の長さ、イヌのサイズ、イヌの性別を属性として、回答者の男女のサンプルスコアを 2 つの軸について比較した結果を表 6 に示す。第 1 軸にて、回答者の性別においてサンプルスコアに有意な差が認められた。(図 2；マンホイットニーの U 検定)

考 察

1) トリマーが捉える、扱いやすい/にくい犬の身体的特徴

本研究にて明らかとなった、トリマーが捉える扱いやすい/扱いにくい犬種の中で、シーズーを除く登録頭数が上位の犬種については、扱いやすさについてトリマー経験年数による分類での差は認められなかった。下位の犬種についてはトリマー経験年数が 3 年未満と 3 年以上の回答者の

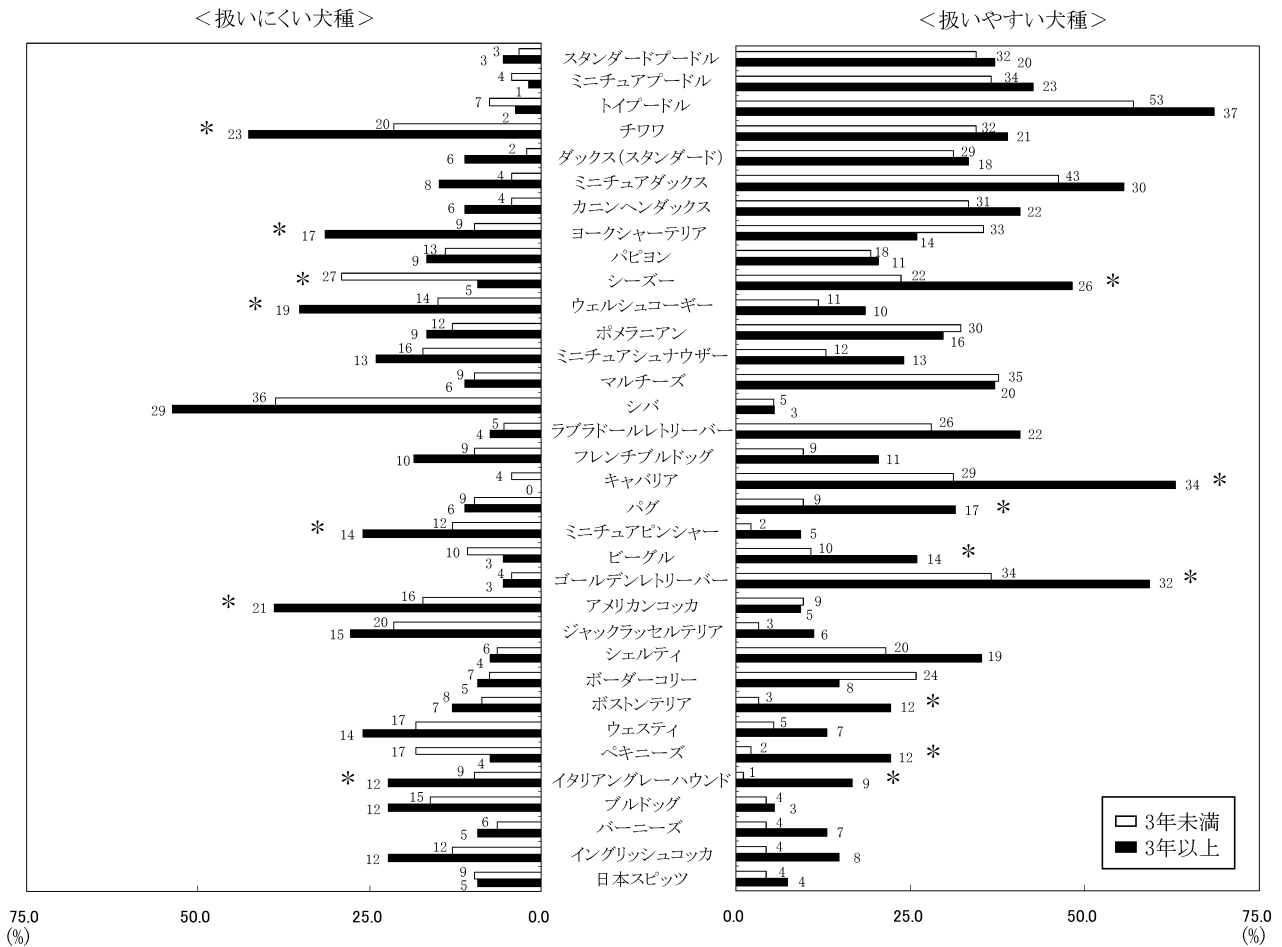


図1 トリマーによる扱いやすい犬種と扱いにくい犬種の選択率比較
 トリマー経験年数が3年未満 (n=93) と3年以上 (n=54) の回答者において、*印に示す犬種で有意な差が認められた (χ^2 独立性の検定; $p < 0.05$)。グラフ横の数字は回答者の選択数を示す。犬種名は上から登録頭数順に記載。横軸は百分率を示す。略語: ダックス; ダックスフンド, ウェルシュコーギー; ウェルシュコーギーペンブローク, キャバリア; キャバリアキングチャールズスパニエル, アメリカンコッカ; アメリカンコッカースパニエル, シェルティ; シェットランドシープドッグ, ウェスティ; ウェストハイランドホワイトテリア, パーニーズ; パーニーズマウンテンドッグ, イングリッシュコッカ; イングリッシュコッカースパニエル。

犬種選択率に差が認められた。この理由の一つとして、トリミング専門学校の実習犬の多くがプードルなどの人気犬種であり、他の犬種に比べて経験の差（トリマー歴の差）が出にくいと考えられた。一方、扱いにくい犬種について、差の認められた犬種の多くは攻撃性、破壊性、無駄吠えなどの傾向が高いとされている犬種^{9,14,15)}であり、トリミング作業に悪影響を及ぼすこれらの行動特性に対峙した経験を数多く持つことによって、トリマーにこれらの犬種に対する「扱いにくい」という意識が定着し、回答の差となって現れやすいと考えられた。とりわけシーズー以外の6犬種において、トリマー歴が3年以上の回答者が3年未満の回答者よりも多く「扱いにくい」と回答していることから、その傾向は強いと考えられた。トリマー経験年数が3年未満の回答者が今後経験を積み重ねることで、3年以上の回答者の回答傾向に近づくのかどうか、注目すべき結果である。

被毛、サイズ、性別に関しては、トリマーにとっての扱いやすさ/にくさを大きく左右する要素であると予測して

いたが、扱いやすいイヌのサイズにおいて小型のイヌと回答する回答者が最も多い結果のみにとどまった。トリマー経験年数が3年未満の回答者の多くが短毛のイヌが扱いやすいと回答したことと併せて考えると、これらの身体的特徴は、トリマーとしての経験によって、かなりの部分が克服されることが考えられた。その一方で、扱いやすい/扱いにくい犬種の結果と比較すると、小型犬として分類される短毛のシバ、ウェルシュコーギーペンブロークなどはむしろ扱いにくいと評価されている。また、ゴールデンレトリバーは大型犬で長毛であるにもかかわらず、扱いやすいと評価されている。すなわち、トリマーはトリミング作業時間に影響を与えるであろうイヌのサイズや被毛の長短も重要ではあるが、犬種あるいは個々の持つ行動特性もイヌを扱う際に重要であると捉えていると考えられた。

2) イヌの扱いやすさ/扱いにくさと統計分析

第1軸については、好奇心旺盛・活発と、臆病・おとなしいを識別する、すなわち犬が動くかおとなしくしている

表 4 質問 6-1 の回答から算出された固有値表

| | 固有値 | 寄与率 | 累積寄与率 | 相関係数 |
|-----|--------|--------|--------|--------|
| 第1軸 | 0.3692 | 37.08% | 37.08% | 0.6076 |
| 第2軸 | 0.2773 | 27.85% | 64.93% | 0.5266 |
| 第3軸 | 0.2052 | 20.60% | 85.53% | 0.4529 |

表 5 質問 6-1 の回答から算出されたカテゴリ数表

| カテゴリ | 第1軸 | 第2軸 | 第3軸 |
|-------|---------|-----------|---------|
| 臆病 | -2.2853 | 8.1225 | |
| 活発 | 3.8775 | 1.1460 | 7.4201 |
| おとなしい | -0.4145 | | |
| 好奇心旺盛 | 4.3176 | 1.1642 | -2.5611 |
| 人なつこい | | -0.2451 * | |

絶対値>0.4のカテゴリを示す

*: 軸の解釈のために参考として明記

表 6 サンプルスコアと各属性との検定結果 (質問 6-1)

| | 第1軸 | 第2軸 |
|----------|----------|------|
| 回答者の性別 | p=0.0066 | n.s. |
| 店舗所在地の環境 | n.s. | n.s. |
| 被毛の長さ | n.s. | n.s. |
| イヌのサイズ | n.s. | n.s. |
| イヌの性別 | n.s. | n.s. |

補正後有意水準; p<0.025

かを識別する軸であると解釈することができた。一方、第2軸については臆病・好奇心旺盛・活発のカテゴリ数が正方向に大きく算出されている。「人なつこい」と併せて解釈すると、ヒトに対して近寄ってくるか、近寄ってこないかを識別する軸であると解釈された。

3) 回答者の性別による、扱いやすいイヌの行動特性の違い

多変量解析の結果に基づく属性別検定によって、男性トリマーは好奇心旺盛で活発な傾向のあるイヌを、女性トリマーはおとなしく臆病な傾向のあるイヌを、扱いやすいイヌと捉えている傾向にあった。男性トリマーは、トリミング作業に対してイヌから明瞭な反応が返ってくることを期待しており、一方で女性トリマーは、トリミング作業に対して犬が動かないこと、すなわちトリミング作業が迅速に終了することを期待しているとも考えられた。ただし、こうした男女による認識の違いは、脳研究を含めた心理学・行動学的観点^{18,19)}、あるいは霊長類を用いた雌雄差に関する発達行動学的な研究成果²⁰⁾などに代表される性の観点のみならず、拡大を続けるペットビジネス社会の実情や、トリマーは圧倒的に女性が多い職種であることなど、社会および文化的背景も少なからず影響すると考えられるため、慎重に判断する必要があると考えられた。また、トリマーによるイヌの行動評価そのものに男女差があるかないかは今後、検証していく必要がある。

結 論

本研究では調査対象としてトリマーに焦点を当て、トリマーならではの経験に基づくイヌの捉え方に関する情報を

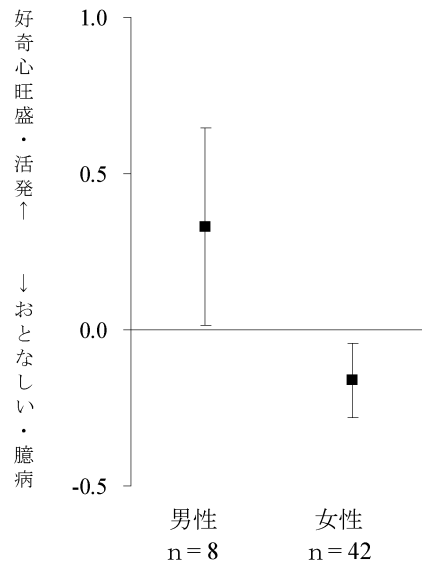


図 2 男性と女性の比較 (第1軸)。縦軸はサンプルスコア、エラーバーは標準誤差を示す。p=0.0066 (マンホイットニーの U 検定)

得ることができた。トリミングにおいて扱いやすいイヌの特徴として、小型のイヌであることなど、身体的特徴もさることながら、扱いやすいイヌの行動特性に一定の共通性が存在することも明らかにした。特に本研究はトリマーによる行動特性の捉え方に男女差があることを初めて見いだした報告であり、今後、調査規模の拡大、調査方法の改良を行うことで、将来的にヒトがイヌを飼育する上で有用な情報となる可能性を示すものである。

謝辞: アンケートの実施にご協力いただいた、トリマーの方々、トリミング専門学校の学生および教員の方々に感謝いたします。

引用文献

- 1) ジェームス, サーベル: 犬: その進化, 行動, 人との関係, 森 祐司, 武部正美, チクサン出版社, 1999.
- 2) JACQUI, M, LEY., PAULEEN, C, BENNETT., GRAHAME, J, COLEMAN., (2009.) A refinement and validation of the Monash Canine Personality Questionnaire (MCPQ). *Appl. Anim. Behav. Sci.*, **116**, 220-227.
- 3) KENTH, SVARTBERG., (2005.) A comparison of behaviour in test and in everyday life: evidence of three consistent boldness-related personality traits in dogs. *Appl. Anim. Behav. Sci.*, **91**, 103-128.
- 4) CAROLINE, PAROZ., SABINE, G, GEBHARDT-HENRICH., ANDREAS, STEIGER., (2008.) Reliability and validity of behaviour tests in Hovawart dogs. *Appl. Anim. Behav. Sci.*, **115**, 67-81.
- 5) THOMAS, FUCHS., CLAUDE, GAILLARD., SABINE, GEBHARDT-HENRICH., SILVIA, RUEFENACHT., ANDREAS, STEIGER., (2005.) External factors and reproducibility of the behaviour test in German shepherd dogs in Switzerland. *Appl. Anim. Behav. Sci.*, **94**, 287-301.
- 6) KENTH, SVARTBERG., and BJORN, FORKMAN., (2002.) Person-

- ality traits in the domestic dog (*Canis familiaris*). *Appl. Anim. Behav. Sci.*, **79**, 133-155.
- 7) SILVIA, RUEFENACHT., SABINE, GEBHARDT-HENRICH., TAKESHI, MIYAKE., CLAUDE, GAILLARD., (2002.) A behaviour test on German Shepherd Dogs : heritability of seven different traits. *Appl. Anim. Behav. Sci.*, **79**, 113-132.
 - 8) YUKARI, TAKEUCHI., and YUJI, MORI., (2006.) A comparison of the behavioral profiles of purebred dogs in Japan to profiles of those in the United States and the United Kingdom. *J. Vet. Med. Sci.*, **68** (8), 789-796.
 - 9) YUICHI, TANABE., (1999.) Breed difference in behavioral profiles of dogs : Quantitative analyses by veterinarians in Japan. *Jpn. J. Hum. Anim. Relat.*, **3** (2), 92-98.
 - 10) GILLIAN, DIESEL., DAVID, BRODBELT., DIRK, U, PFEIFFER., (2008.) Reliability of assessment of dog`s behavioural responses by staff working at a welfare charity in the UK. *Appl. Anim. Behav. Sci.*, **115**, 171-181.
 - 11) 増田宏司 : イヌの気質に関する行動遺伝学的研究. 東京大学, 書誌 ID0000007735459, 報告番号甲第 19240 号 2004.
 - 12) ジャパンケネルクラブ, [http://www.jkc.or.jp/]
 - 13) 武内ゆかり : イヌの気質に関する行動遺伝学的研究. H13~H15 年度科学研究費補助金 基盤研究 (B) 研究成果報告書 (課題番号 03460131), 2004.
 - 14) 武内ゆかり : はじめてでも失敗しない愛犬の選び方, 幻冬舎, 2007.
 - 15) HART, B.L., and HART, L.A., 1988. The perfect puppy, W.H. Freeman and Company, New York.
 - 16) 菅 民郎 : 多変量解析の実践 (下), 現代数学社, 2001.
 - 17) 森本栄一 : 戦後日本の統計学の発達. 行動計量学, 第 32 巻 1 号, pp. 45-67, 2005.
 - 18) FEINGOLD, A., (1994.) Gender differences in personality : a meta-analysis. *Psychol. Bull.*, **116** (3), 429-56.
 - 19) COSTA, PT, Jr., TERRACCIANO, A., MCCRAE, RR., (2001.) Gender differences in personality traits across cultures : robust and surprising findings. *J. Pers. Soc. Psychol.*, **81** (2), 322-31.
 - 20) GERIANNE, M, ALEXANDER., MELISSA, HINES., (2002.) Sex differences in response to children's toys in nonhuman primates (*Cercopithecus asthiops sabaeus*). *Evol. Hum. Behav.*, **23** (6), 467-479.

The Questionnaire Survey of Dog's Behavioral Traits to Dog Trimmer

By

Lisa TADOKORO*, Koji MASUDA**, Asami TSUCHIDA** and Takao OISHI**

(Received February 22, 2011/Accepted September 13, 2011)

Summary : We carried out a questionnaire survey on dog's behavioral traits to trimmers and trimming technical school students. The survey revealed that the important morphological peculiarity for 'dogs easy to handle' was 'small size', though the morphological peculiarities (length of coat, size and sex) have no effect on 'dogs hard to handle'. Answers of the behavioral traits responsible for 'dogs easy for handle' from respondents having professional career of at least 3 years were statistically analyzed based on the multivariate analysis (HAYASHI'S Quantification Methods type 3). The analysis extracted two available axes and revealed that there was sex difference on one axis for 'dogs easy for handle'. That is to say, male trimmers tend to prefer active and curious dogs, while female trimmers tend to prefer gentle, timid dogs as an index for 'dogs easy to handle'.

Key Words : easy to handle, dog, behavioral traits, sex difference, trimmer

* Department of Human and Animal-Plant Relationships, Graduate School of Agriculture, Tokyo University of Agriculture

** Department of Human and Animal-Plant Relationships, Faculty of Agriculture, Tokyo University of Agriculture